ずぶ濡れのハト

南出謙吾

【舞台設定】

とある山あいの、人口五千人に満たない小さな町。そこの老舗スーパーマーケット、マルコー鳥越店。

舞台は、バックヤードの休憩コーナー。
舞台奥方面にベンチ。手前にテーブル一脚と椅子が数脚。
舞台正面は搬入用のシャッターになっている。
シャッターを開けると、搬入用のトラックを停めるスペースがあり、その向こうには、広い河原。上流の割には広く、広い割には流れは速い。
川原の向こうには深い山々が連なる。従業員自慢の景色だ。
シャッターを含め、駐車場および川原は、客席側にあり、舞台としてはセットしない想定。

【人物】

小柳　男　三十代後半　マルコー鳥越店の新米店長
猪原　女　四十代前半　惣菜部チーフ
久保　女　三十代半ば　惣菜担当
八木　女　二十代前半　惣菜担当
増田　男　三十前後　精肉部サブチーフ
坪井　男　五十代半ば　精肉部チーフ
絹川　女　二十代半ば　レジ担当
佐野　男　四十代半ば　出入りの運搬会社

一場　真夏

・早朝　五時

川のせせらぎが聞こえる。
せせらぎが小さくなり明かりが入る。
スーパーマルコーのバックヤードの休憩コーナー。
扇風機が首を振りながら回っている。
ベンチで女（猪原）が、ツタンカーメンのような恰好で眠っている。

スラックスにジャンパーを羽織った男（小柳）が入ってくる。電気を点ける。
手には真新しい新聞。

猪原が眠っていることにぎょっとする。ほんの一寸考える。扇風機を止め、近くの椅子に座り、新聞を広げる。中ほどの地方版までペラペラとめくる。一つの記事をじっくり読んでいる。

猪原、目を覚ます。

猪原　あ、ごめん。
小柳　なに寝とん。
猪原　車できたさけぇ。飲むつもりなくて。
小柳　風邪ひくやろ。
猪原　なにぃ。
小柳　扇風機つけたまま寝たら。

止まっている扇風機を見る。そして時計を。

猪原　……五時。
小柳　うん。

小柳、新聞を折り曲げ、記事に集中する。

猪原　高（た）こつくさけ。
小柳　ん。
猪原　代行呼ぶと。
小柳　あ、やな。

猪原、座る。

猪原　店長。
小柳　ん。
猪原　早ない。

小柳、僅かに考え込んで、応答する。

小柳　ちょっとな。
猪原　大変ですなぁ。
小柳　うん。
猪原　自分でゆっとる。

小柳、対応が面倒になってしまい返事をしない。
猪原、大きなあくび。

猪原　ま、いいわ。朝ごはんまでに戻ったら。
小柳　うち、大丈夫がけ？頼隆君。
猪原　おばあちゃんっ子やさけぇ。おばあちゃんおったらいいげん。あの子。
小柳　そんなもんがんけ。
猪原　かわいない。

小柳、母親らしからぬ発言が少し気になるが、取りあえず軽くだけ頷く。
新聞に集中する。

猪原　（ちょっと笑って）全力すぎやろ。新聞読むの。

といいながら、猪原、小柳の隣へ。
小柳が読んでいる記事を読む。

猪原　……あ。決まってしもた。
小柳　昨日本店からメールあってぇ。今日の朝刊に載るがって。
猪原　鶴来に超大型ショッピングセンター。来年夏オープン。……ユニクロ入るんけ。
小柳　ケーズデンキも。
猪原　便利になるやん。バイパスできたら15分位かからんぞいね。
小柳　うん。

二人、急に真顔になり、記事を読む。
猪原、不意に吹き出す。

猪原　これ、やっぱいね、うちの店。
小柳　うれしいがか。
猪原　笑うしかないぞいね。
小柳　ここまでする？ふつう。
猪原　もう白旗け。
小柳　まさか。これからや。
猪原　頼むぞいね。
小柳　ただな、反対署名とか、振興会のこととか。ボランティアでやってくれとったやろ。今日みんな出てくるとき、新聞見た人おれんなあって思たら居たたまれんぞいや。朝礼なんて言（ゆ）お。
猪原　それ考えに来たんけ。こんな早に（はやぁに）。
小柳　まぁ。
猪原　涙もんやん。みんなわかってくれるぞいね。
小柳　猪原さんに励まされとんのもどうかと思うわ。
猪原　店長まだ一年おらんやん。うち十年おれんよ（いるのよ）。うちのがわかっとる。この店のこと。

小柳、小さく頷く。

猪原　それに惣菜はうちが見とれんさけ（見ているんだから）大丈夫や。

小柳、小さく頷く。

猪原　……店長が一番過酷やったもんな。反対運動。

小柳、首を横に振る。

猪原　本店も酷いぞいね。こんなんなること分っとったがやろうに。こんな新人の店長赴任させて。

小柳、ややあって、ゆっくりと首を縦に振る。

猪原　弱っ。どしたん。簡単には負けんよ。びっくりカツ丼超える商品でも考えたげるがいね。

話の途中、男（坪井）、入ってくる。
二人が居ることに強い違和感を感じながら慎重に。

坪井　…おはようございます。
小柳　あ、おはようございます。もう出勤ですか。
坪井　はい。
小柳　早すぎません。
坪井　昨日ぉ、計算まちごとるって店長が。
小柳　でも、こんな早に来てまでやらんでも。
坪井　お昼の会議までに、修正しておくようにって。
小柳　だからお昼まででいいですよ。
坪井　開店すると、全く時間ないですさけ。
小柳　あ、そうですか。なんか、すんません。
坪井　まちごうたん私です。すんません。

坪井、去る。
猪原、立ち上がり坪井が去ったのを見届ける。
小柳の向かいに座る。

猪原　何まちごうたん。
小柳　仕入れの見込み。ほんと苦手なんや、坪井さん。計算。
猪原　しゃあないやろ。チーフあがったばっかがや。
小柳　もはやそうでもないよ。
猪原　ようやくチーフ昇格か。
小柳　二十五年目やぞ。
猪原　やるせないねぇ。
小柳　精肉の売上落ちとるし。
猪原　まぁねぇ。
小柳　精肉の経費増えとるし。
猪原　あぁぁ。
小柳　残業増えとるし、廃棄増えとるし、部下の文句増えとるし。
猪原　ひどいな。
小柳　シャッター開けていい？
猪原　いいけど。
小柳　空気吸いたい。

小柳、立ち上がりシャッターのボタンを押しに行く。
シャッターゆっくり開く。淡い光が差し込む。
穏やかな鳩の鳴き声。

猪原　雨、降っとる？
小柳　どやろ。でも道路濡れとる。

湿った風が入ってくる。川のせせらぎも。

小柳、猪原が眠っていたベンチに座る。
浅く腰かけ、両手を広げて体を支える。
猪原、その隣へ。小柳と同じ感じで座る。
二人の、指先が触れかける距離だ。
小柳、その距離と、坪井を気にする。
二人の前には、搬入用の僅かな駐車スペース、川辺の草むら、
その先ややあって、流れの速い広い川。
マルコーの従業員お気に入りの景色だ。
風と景色とせせらぎ、朝の匂いに浸る。

猪原　スープの冷めん距離にな。
小柳　ん。
猪原　住んどれん。前の旦那。
小柳　……。
猪原　スープの冷めん距離に家こうたさけ。
小柳　ん。あぁ。
猪原　うち、お母さん独りやさけ。
小柳　うん。
猪原　そんでぇ……。
小柳　……なに。
猪原　前の旦那が。時々くれん（来るの）。頼隆に会いに。
小柳　……。
猪原　小柳君には、言（ゆ）ってなかってんけど。頻繁にくれん。

小柳、深く腰掛けなおす。触れかけの手を、膝の上に。その手を組む。
猪原、立ち上がる。

猪原　ほんとのことやさけ。仕方ない。やっと言うたんや。

猪原、去る。
川のせせらぎ徐々に大きくなり、雨音に変わる。やがて豪雨に。

・朝　九時半

小柳、奮起して立ち上がる。
大きな雨音に負けない声で。

小柳　おはようございます。皆さん、もう知っとりますよね。まずは、出店阻止に向けた惜しみないご協力、本当にありがとうございました。（深く、頭を下げる。）残念ながらうちらの、商店街の、鳥越の町民の切実な声は、全く届きませんでした。痛恨の極みです。開店三十周年の節目だというのに皮肉なもんです。隣町とはいえ、バイパスが完成したら十五分。マルコー鳥越店は、おそらく壊滅的な打撃を……もっとゆうと存続の危機ですそれでも……この店は鳥越の唯一のスーパーなんです。

話の途中で、ひとり、またひとりと現れる。小柳の話を聞いている。

小柳　町民の台所としてなくてはならん存在です。運命共同体とも言える商店街のにぎわいの拠点としても、なくてはならん存在です。そやからこそ、これまで以上に一枚岩となって立ち向かっていかんなん。どうか力を貸してください。皆さん一人一人が、知恵を絞って力を合わせれば、必ず突破できると信じてます。各部チーフは、十五時から緊急の対策会議を開きます。では、今日も一日、よろしくお願いします！エイエイオー！

皆　エイエイオー！

各々、持ち場につくべく、去る。

・夕方　十八時

雨は止んでいる。
山あい独特の落ち着いた蝉の鳴き声。
八木、久保、テーブルを挟んで座っている。
八木、手に持っていた企画書の用紙をテーブルにパシリと置く。

八木　売れます？これ。
久保　思わん？
八木　うちらの意見も聞いてください。
久保　びっくりカツ丼超えるんはこれしかない、位に思とれんけど。
八木　無理ですね。
久保　聞く象箱に、びっくりカツ丼大きすぎるって、結構何枚か入っとったやろ。
八木　２枚です。そもそもびっくりカツ丼って大きいのがウリですから。その投稿自体どうかと思います。
久保　２枚でも。お客様の声やぞいね。
八木　だからって。
久保　だからこそがや。
八木　……びっくりカツ丼ミニ。
久保　逆転の発想が。
八木　びっくりとミニて、真逆ですよね。
久保　がっつり食べたいのと、ダイエットしんなんてのと、あるげん。若い女性客に。
八木　両方満たされません。
久保　そうかなぁ。
八木　あとこれ。丸ごとチク天ハーフ、ですか。一緒ですね。
久保　そやから、逆転の発想がやって。
八木　ハーフって時点で、丸ごとちごいますよね。指摘するのも辛いですけど。
久保　あれ大きいが。一人暮らしのお年寄りとか、余るが。助かるが。
八木　猪原チーフゆっとったのって、オープンしたら絶対客数減るさけ、とにかく客単上げんなんってことととちごいますか。これやと下がるんちごいます？
久保　客のニーズがや。
八木　それまんま受けたら単価安なるだけです。

久保　あんたほんと冷静がやね。
八木　せやから、工夫しんなん思うんです。
久保　なんかある？
八木　ひとつ考えたんがはあります。
久保　なに。
八木　地味かもしれませんが、キノコ牛丼っていうんですけど。
久保　えっ……へぇ。びっくりした。ほんと地味やね。
八木　キノコって鳥越っぽいがやないですか。名物にしたりできるんちごうかって。

増田、やってくる。

八木　それに、少し位価格のせても、いけそうやし。
久保　なんや、増田、もうあがりか。
増田　３０分残業したわ。そっちこそ。
久保　惣菜部の大事な会議や。
増田　メイちゃん、あがり？店長呼んどる。
八木　今ですか。
増田　そ。
八木　あぁどうしよ。

増田、扇風機のスイッチを入れる。
が、つかない。
他のスイッチを押したり、コードをいじってみる。

久保　いいよ、行っといで。
八木　あ、はい。
久保　キノコ牛丼、いいがんもしれんな。
八木　ほんとですか。
久保　頼もしなったなぁ。メイちゃんおったら惣菜部安心やぞいね。期待の新人がや。増田思わん？
八木　もう三年いますさけ。ぜんぜん新人ちごいますよ。
久保　そんなになるけ。
八木　行ってきますね。
久保　増田、なにしとん。

八木、去る。

増田　つかんげん。扇風機。
久保　左のスイッチや。
増田　そんなんわかっとるわ。つかんげんて。
久保　なにぃな。

久保、扇風機の傍へ。
スイッチを入れてみる。
扇風機は反応しない。

久保　ほんとや。
増田　やっきねーぞいや。クーラー買うてもらわんなん。
久保　なんでもすぐに捨てんがや。
増田　死んどるがいや。こいつ。
久保　直してもろたらいいが。
増田　こんなんそこまでして使（つこ）うやつおらんぞいや。
久保　チーフ会何やったん。
増田　暑て死ぬぞいや。
久保　精肉の冷凍庫にでも入っとれ。
増田　辛気臭い。休憩位おりたないわ。
久保　チーフ会何しゃべったんやって聞いとんげんけど。
増田　ショッピングセンターの対策みたいなやつや。全然駄目。危機感ないげんみんな。なんも結論でん。
久保　ふうん。
増田　そんであとな。ひとつ発表あったがやけどな。
久保　うん。
増田　久保さん的にはちょっと微妙な話やけどぉ。
久保　なにぃ。
増田　猪原さんからちゃんと話あるがやろうけど。
久保　惣菜部のこと。もったいぶらんでいいが。
増田　メイちゃん。
久保　うん。
増田　来月からサブチーフに昇格するげんて。
久保　え！
増田　みんなもそんがなして、びっくりしとったぞいや。
久保　まだ、三年目やぞいね。
増田　後輩やし、やりにくいがやな。
久保　今の、その告知。
増田　ちごうわ。
久保　なんで。いつゆうん。本人に。
増田　本人の内示なんて、先週位に済んどるが。
久保　え。メイちゃんもう知っとん。
増田　そらそや。今のはみんなにゆうたよってことゆうだけがや。
久保　……え。知っとん。
増田　だから、知っとるって。
久保　まじか。
増田　な、今日夜暇？
久保　ぜんぜん知らんかった。
増田　なぁ。
久保　ん。

佐野、段ボール箱を載せた台車を押しながら入ってくる。
足が悪いようで、歩き方が不自然だ。

佐野　こんにちはー。

増田　ご苦労様でーす。
佐野　遅なってすみません。今日の最終です。
増田　（時計をちらっと見て）ほんとですね。
佐野　バイパス工事で、県道片側通行で。
増田　あぁ、混んでました。
佐野　深夜にやってくれって感じですよ。
増田　見てくださいよこれ、扇風機壊れたんですよ。

増田、スイッチを入れてみる。扇風機は動かない。

増田　ほら。
佐野　それは災難な。
増田　そもそもこんなのが現役ってねぇ。
佐野　いやまぁですね。（扇風機に）長い間お勤めお疲れ様でした！
増田　えらい量ですね。
佐野　いやいや、精肉ですよ。
増田　あ、うちですか。
佐野　はい。
増田　そうでしたっけ。なんかすんません。手伝いましょか。
佐野　大丈夫です。こんくらい。じゃ。

佐野、去る。

久保　大恥かいたわ。
増田　はあ？
久保　すごい先輩面してしもとった。今週。
増田　今週っていうか、いつも先輩面やじ。
久保　特に今週そんな気ぃする。
増田　先輩は先輩が。
久保　店長見る目あると思う。
増田　店長やなくて本店のご指名がや。
久保　すごいな。
増田　久保さんが育てたんやもんな。
久保　うん。それは、思う。
増田　そや。
久保　……恥かいた。
増田　そんなショック受けんでも。
久保　受けてないわ。いい話が。
増田　な、終わったら飯いかん。話きいたるさけ。

絹川、やってくる。

絹川　すんません。
増田　なにぃ。
絹川　あのぉ夜間レジの人風邪で休むって電話あってぇ。誰か夜入れる人おらんか聞いて来いって。

久保　あ、うち？
絹川　ひとりでもぜんぜんいけるんですけど、どうしてもゆうさけ。
久保　いいいい。たまのレジ楽しいさけ。
絹川　すんません。
久保　何時から。１９時までは惣菜抜けられんがやけど。
絹川　１９時ラストです。
久保　わかった。いいよ。
絹川　すんません。

絹川、去る。

増田　１０時まで。
久保　やな。
増田　気前いいなぁ。４時間残業やじ。
久保　そりゃ。新人さん困っとるが。
増田　あの子レジくっそ早いらしが。
久保　夜間レジん時競争しんなん。今でもうちの店でレジ一番早い自信あるぞいね。
増田　客びっくりするな。猛烈にレジの速い店で有名なろうや。
久保　それいいな。ショッピングセンターの対抗策で。
増田　すっごい早口にしんなんげんぞ。
久保　バーコードの射撃率１００％。こんながや。

久保、バーコードを的確に高速で読み取る真似をする。
増田、それを見て笑う。

久保　サニーレタスお１つ、合挽お２つ、チョコボール、３つ。
増田　なんでチョコボールなん。
久保　なんで３つからは、お、つけんげんろ。
増田　どうでもええわ。
久保　どうでもええな。
増田　こんなんで客増えたら面白いな。
久保　ええな。
増田　終わるの１０時やな。
久保　まぁ、発注もしんなんけどな。
増田　何時頃終わるが。
久保　そやなぁ。

八木、小柳と一緒に戻ってくる。

久保　お帰り。

増田、がっくりする。

八木　（増田に）あのぉ。
増田　ん。

久保　どしたん。
小柳　なぁ、４万平米やて。
増田　なにがですか。
小柳　ショッピングセンターや。
増田　あぁ。
久保　ピンとこないですね。
小柳　東京ドーム１つ分や。
久保　あ、１つ分ですか。
増田　そんなもんなんすか。
小柳　いやいや、東京ドームやぞ。しらんけ？
増田　そら、知ってますけど、想像ほとどちごうなぁって。
八木　田んぼやったら、４０枚以上ですよ。
増田　え、え、え、まじか。
久保　でっか。
増田　というか、東京ドームでかっ。
久保　店だけでですか？駐車場込みで。
小柳　店舗面積だけでや。
増田　ありえんぞいや。
小柳　そんなんが来年には鶴来にでーんとできんげん。
久保　まじか。
小柳　そやさけな、うちらは鳥越に根付いてちゃんとやっていけるようにしんと。みんなそっち行くげんぞ。
久保　ますます本気ならなんといかんね。
小柳　コストも、売り上げも、悪いけどな、かなりシビアに見ていくことになるさけな。
増田　わかってますよ。臨戦体制バッチリですよ。
八木　あれから、ひとつ思いついたんですけど。新商品です。
小柳　さっそくけ。頼もしいな。
久保　でなに。
八木　青果部のやつで、朝摘みトマトってあるやないですか。
久保　あるあるある。
八木　新鮮でおいしそうな感じするやないですか。
久保　するするするする。
八木　それパクッてゆうわけちごいますけど、朝採れキノコ牛丼って。
久保　おいしそうやじぃ！
小柳　ほんとやな。
八木　でしょ。
増田　朝収穫したキノコなんて、昼時に間に合わんがやろ。仕入れ的に無理やがいや。
久保　でった～ネガティブ発言。
八木　今朝とはゆってないです。とある、朝です。
増田　とある、朝……。
八木　そう。
増田　とある朝採れキノコ牛丼。なんか腹壊しそうやな。
八木　とあるは、あえて付けんでもいいんとちごいますかね。
増田　ブラックやな。
小柳　確かに朝摘みトマトも、今朝ってわけとちごうもんな。

久保　よし、それいこ。
八木　びっくりカツ丼ミニはどうします。
久保　……やめといたほうがいい、ですか、なんて。
小柳　そんで、久保さん、ちょっとだけ、いいがか。話あるげん。
久保　あ、はい。メイちゃんそれ、猪原チーフに相談しといて。
八木　はい。

久保、小柳、去る。
増田、扇風機の所へ。
スイッチを入れたり切ったり。
電源コードを丹念に調べる。
八木、少しそれを眺めるが、居場所を見つけられない。

八木　入社してからずっと、久保さんにほんと世話なりっぱなしやったさけ。
増田　そりゃメイちゃんの担当やったさけな。
八木　まさか先にサブチーフなる思てなかったさけ。
増田　普通や。正社員なんがやさけ。
八木　人事やから誰にも言うな言われて、内緒事みたいに変な感じになってしもたし。

増田、扇風機を調べるのをやめる。

増田　俺もこんな早に追いつかれるなんて思てなかったぞいや。
八木　いえ。
増田　飯いかん？おごるさけ。
八木　え。
増田　普通におめでとうやん。
八木　ありがとうございます。
増田　もう定時すぎとるが。行こ。
八木　あ、はい。

八木、かっぽうぎを脱ぎはじめる。
坪井、入ってくる。

坪井　増田、ちょっといいがか。
増田　なんなんすかほんとまじで。
坪井　配送届いたんがやけど。
増田　そら、届きますよ。
坪井　ものすごい量多くてな。これ。

坪井、伝票を増田に見せる。

八木　じゃ、車んとこ先いっときますね。
増田　おう。
八木　（坪井に）お疲れ様でした。
坪井　お疲れ様。

八木、出ていく。
増田、伝票をじっくりと見る。愕然とする。

増田　0が多いが！一桁ちごいますよ。
坪井　返品できるんけ。
増田　できませんよ。チェックは。僕やりましたっけ。
坪井　いや、忙しそうやったさけ。
増田　いまのうちの状況わかってます？こんな無駄こいとる場合ちごうんですよ。
坪井　わかっとる。
増田　わかっとらんでしょ。わかっとったらしんでしょこんなん。
坪井　すまん。
増田　自分でも一回見直したら気づくでしょ。
坪井　すまんて。
増田　ちょ、先、店長室行っといてください。
坪井　ん。
増田　顛末書書かんなんでしょさすがに。手伝いますさけ。あぁもうありえんぞいや。

増田、八木の去った方へ出ていく。
坪井、青ざめた表情で逡巡しながら、出ていく。

・夜　十時半

増田、入ってくる。椅子に浅く腰掛け、だらりとしている。
レジ担当のエプロン姿の久保が入ってくる。

久保　まだおったん。
増田　帰れんかってんや。
久保　すっごい文句ゆうとったやろ。みんなひいとったぞいね。
増田　正直チーフ無理や。
久保　帰ったが。ずっと残っとったけど。
増田　帰したんや。肉だけ切っとったらいいげん。あいつ。
久保　あんたなぁ。坪井さん反対運動一番一生懸命やってくれとったたがやろ。
増田　それとこれとは別や。
久保　休みの日も、商店街で署名やったりやな。
増田　一緒や。結局決まってしもうたんやさけ。
久保　毎朝バックヤード掃除してくれとるし。精肉部んとこだけやなくて。
増田　それも別や。やから、バケツ呼ばれるんや。
久保　そんなこと言わんのや。
増田　エプロン似合（にお）とるな。
久保　死にたいか。
増田　なんで死なないかんがや。

久保、エプロンを外す。

増田　な、ちょっと。見てみ。
久保　なに。

増田、扇風機のスイッチを入れる。
扇風機が動く。

久保　え、直ったん。
増田　直したんや。
久保　増田が？
増田　そうや。
久保　すごいじぃ。そんな能力あったがか。
増田　感謝してや。
久保　するする。愛着あるげんよ。これ。

久保、扇風機を撫でる。

増田　な、ちょっとどっかいかん。車出すさけ。
久保　今から？どこ。
増田　ダムとかでいいが。あれやったら海までいってもいいし。
久保　疲れたぞいね。フル勤務やよ。
増田　ちょっとしゃべりたくない？
久保　なんで。なにを。
増田　鳥越店のこれからとか。
久保　どの口が言う。
増田　最年少サブチーフがやぞ。
久保　今日までな。
増田　言わんといてや。
久保　ゆっとくけど、私おめでとう思とれんよ。メイちゃんのこと。心の底から。
増田　うそや。
久保　ほんとや。なんで上手にゆえんかってんろって思とる。
増田　どうすん。ダム。
久保　どうしようかなぁ。
増田　行こうや。せっかく終わるの待っとったんやさけ。
久保　え？待っとったん。

絹川、入ってくる。
増田、悶絶。

久保　あぁ、お疲れ。レジ締め、終わった？
絹川　はい。売り上げも夜間金庫入れてます。
増田　じゃ、もう帰れるんけ。

増田、扇風機のスイッチを切る。
絹川、携帯電話を久保に見せる。

絹川　この携帯誰のか知りません？
久保　しらん。どこにあったん。
絹川　精肉部のとこです。
増田　なんかあったなぁそれ。バックヤードやんな。
絹川　はい。
増田　客とちごうな。
久保　うち預かっとくわ。早出やし。
絹川　すんません。

絹川、携帯を久保に渡す。
久保、机の上にそれを置く。

久保　今日やめとくわ。
増田　なんでぇ。
久保　もうちょいやることあるさけ。
増田　そっかぁ。
久保　また誘て。
増田　わかった。
久保　ごめんな。
増田　絹ちゃんさ。
絹川　はい。
増田　ちょっとだけ、ドライブいかん？ダムとか。
絹川　はい？
久保　あんたな。
増田　なにぃ。
久保　いいげんけど。
増田　はぁ？
久保　どんだけ寂しいんや。
増田　別に。
絹川　ダムですか。
久保　いいいい、断っていいんやよ。暇人やさけ。
絹川　えっと。
久保　なに。
絹川　いえ。
久保　ちごうちごう。うちら、そんなんちごうから。
絹川　そうなんですか。
増田　そらそや。
絹川　てっきり。
久保　仲いいさけね、うちの店。
絹川　思います。
増田　行かん。一時間位。
絹川　今日じいちゃんひとりやさけ。
増田　無理なん。
絹川　寝とったらいけますけど。わからんさけ。

増田　寝とったらいいがか。
久保　無理しんでいいって。
増田　絹ちゃんチャリやんな。
絹川　はい。
増田　うちまで送ったげるわ。チャリトランク積んで。で、じいちゃん寝とったら、行かん？
絹川　いいんですか。
久保　いくんならはよいっといで。セキュリティかけとくさけ。
増田　まだおるん。
久保　もうちょい。
増田　一緒に店でようや。
久保　邪魔したらいかんし。
増田　邪魔できんよ。一緒にいかんがなら。
久保　まだやることあるげん。
増田　そこまで頑張らんでも。
絹川　ヘルプありがとうございました。
久保　なんなん（いいよいいよ）。お疲れ～。
増田　おつかれ。

増田、絹川、去る。

久保、二人が去ったことをちゃんと確認する。
エプロンを机の上に置く。
忘れ物の携帯を手にする。
操作する。躊躇はない。
ロックの解除を試みているのだ。
しばし、挑戦。

久保　……わからん。

引き続き、挑戦を続ける。

久保　なんで夜中にダムなんかが一番わからん。

引き続き、挑戦を続ける。

久保　！

ロックは解除されたようだ。
操作する。

久保　……ん？

久保、携帯を真剣な顔でどんどんとスクロールさせる。

・夜　二十三時

椅子座った久保の目前、佐野が立っている。同時に、久保は携帯をテーブルの上におく。

久保　なんで。
佐野　通用口空いとった。
久保　勝手に入ってきたんですか。
佐野　車あったさけ。
久保　駄目やないですか。
佐野　今日ここの配送の後、そこの川原で休んどったがや。
久保　サボりですか。
佐野　たまぁに働き者のかっぽうぎ女子が見えたぞいや。
久保　うち。
佐野　かわいいのに。
久保　のにってなにぃ。
佐野　元気いっぱいの夏やね。川原の紫陽花がすげーしわくちゃで。
久保　用でも、あるんですか。
佐野　ちょっとドライブせん？
久保　何時やと思とるんですか。
佐野　ダムでも。
久保　なんでどいつもこいつもダムなんですか。
佐野　なに。うちんちでもいいけど。
久保　誰かに見られますよ。隠したがってたの佐野さんやないですか。
佐野　それは、もうよくなった。
久保　身勝手ですね。
佐野　携帯忘れた。たぶん、この店。
久保　これやないですか。

久保、テーブルの上の携帯を指す。

佐野　ありがとう。助かった。
久保　精肉部の前に落ちてました。
佐野　ええ？

佐野、携帯の臭いをかぐ。

佐野　ちょっと肉臭くない。
久保　そんなことないでしょ。前ですよ。
佐野　精肉部の臭い苦手やぞいや。

佐野、執拗ににおいをかぐ。

佐野　見た。携帯。
久保　なんで。
佐野　見たんや。

久保　……はい。
佐野　駄目やろ。
久保　ごめんなさい。

佐野、机の上に座る。

久保　駄目ですよ。そんなとこ乗ったら。
佐野　なんで見たん。
久保　……。
佐野　なぁゆうてみ。
久保　なんでそんな強気なんですか。
佐野　はぁ？
久保　ロックNo.元カノの誕生日ってどうゆうことですか。
佐野　え。そらお前、自分の誕生日やったらすぐわかるが。ロックの意味ないし。
久保　ロックしんなん意味がわからないです。
佐野　プライバシーがや。
久保　なんや、元カノに守ってもろとるみたいになってるし。
佐野　ちごうて。忘れん番号ゆうたら。
久保　どうゆうことですか。どんどんドツボにはまってますよ。
佐野　いやだから。
久保　エッチなの見るんですね。
佐野　……え。
佐野　履歴。
佐野　見たん。
久保　いいんですけど。見るのは。ただちょっと。
佐野　なにぃ。
久保　量が。もの凄くて。うちのモノサシでは測れない、もはやメジャーがいる。
佐野　それって好みがさ。塩加減みたいな感じで。な。
久保　どんだけエロいんですか。
佐野　通過しとるだけがや。
久保　なんすか通過って。
佐野　なかなか好みのに到着できんくて。それで。色々ほら回り道するさけ。
久保　どんだけ見とんですか。
佐野　ほかに時間つかったらって、思たんやろ。ペン習字うまくなるよ、英語しゃべれたりするかもよ、いや、せめて眠ったら、毎日眠そうなんやしそういえばここんとこねむそうなんやしって思たやろ。
久保　思いますよ。暇ですか。肉の塊ですか。
佐野　なんでや。
久保　肉欲の塊ですかって。
佐野　そうしんと終わらんがや。一日が。
久保　うちおったら終わらせられます？一日。
佐野　確実に。
久保　へぇ！
佐野　なに。
久保　うちもなんですよねぇこれが。

佐野　ん。
久保　うちら、互いがただの人肌なんですね。
佐野　そういうことちごうて。
久保　いちいち一日を終わらせる必要なんかないですよ。そんな楽しとる暇ないです。店も、世の中も、人生も、地球も。
佐野　壮大やな。
久保　後悔するんですよ。朝、一緒におると。あぁ、また私という人間は流せないその日の問題を他愛無い話してちょっと飲んで適当な気分になっていちゃいちゃして流してしもたって。
佐野　どんだけストイックがや。
久保　泣きそうになるわ。

佐野、机から降りて、久保の正面に座る。

佐野　なんなん。嫌いなったん。
久保　ハムスター、買い替えたやろ。
佐野　……わかる。
久保　やっぱ。ちょっと小さなってましたもん。子供みたいな誤魔化し方せんといてください。
佐野　手術2万もするゆうし。
久保　関係ないでしょ。
佐野　買うたら二千円やん。
久保　金ないんやったら出しますよ。手術代位。
佐野　そんなん頼めるか普通。
久保　そんなん簡単に買い替えませんよ普通。
佐野　簡単ちごうわ。ものすごい悩んだわ。
久保　まったく悩みませんよ普通。
佐野　余裕ないげん。
久保　余裕なくなったら、真っ先に削るのそこですか。貧しすぎません、心が。
佐野　そこまでゆわんでいいがいや。
久保　そんなんやったらスマホかて、ガラケーでいいやないですか。ハムスターよりエロいんですか。
佐野　ん？
久保　ハムスターの命よりエロいの選ぶんですかって。

佐野、久保の隣へ。

佐野　やめん？マルコー。
久保　なんでですか。嫌ですよ。
佐野　疲れとる。マルコーのせいや。
久保　ほっといてください。
佐野　畳むみたいやが。鳥越店。
久保　……なんで。
佐野　うちの社長がゆうとった。マルコーの社長と仲いいやん。
久保　いつ。
佐野　知らん。
久保　騙されませんよ。
佐野　知らんよ。うちの社長から聞いた話がや。

久保　やめません。好きですから。この店。
佐野　なくなるかもしれんげんぞ。
久保　そうならないように、頑張るだけです。
佐野　コロッケ揚げるの大好きがやな。
久保　コロッケだけやないですけど。ですね。
佐野　かっぽう着似合わんよ。
久保　ほっといてください。
佐野　いまのが、断然かわいい。
久保　佐野さん、すっごいかっこよかったのにな。
佐野　なに。
久保　うちが新人やったからかな。
佐野　かもな。
久保　違う。佐野さん、配送中に事故ってからおかしなった。駄々っ子みたい。
佐野　ねぇ遊ぼうよぉ。ねぇってばぁ。

と言いながら、佐野、久保の至近距離に近づく。
久保、笑いながら、それを制する。

久保　きもいです。
佐野　マルコーと俺とどっちが大事が。どっちが好きが。どっちに時間割きたいが。
久保　勝算ある思て聞いてます？なめてます？うちのこと。
佐野　多少はあると思てる。
久保　マルコーです。
佐野　携帯勝手に見たくせに。
久保　見るは見ました。
佐野　ちょっとは後ろ髪引かれてるってこととちごうん。
久保　引かれますよ。正直言うと。これでも。何事かと思いますよ。自分でも。
佐野　ほら。
久保　もうちょっと格好よくなったら。考えます。

久保、扇風機の所へ。扇風機のスイッチを入れる。

久保　涼しい。
佐野　壊れたんとちごうん。
久保　直してもろたんです。
佐野　誰に。
久保　……内緒。

佐野、扇風機を切って。

佐野　……社長がゆうとったって、ほんとやぞ。
久保　そんな簡単にハムスター買い替える人のことは信用できません。

佐野、苛立ち、あたりの段ボールをひとつ、思いっきり蹴とばす。
小柳、入ってくる。

小柳　なにしとんがや。

久保、佐野僅かに見合い。

久保　すみません。
小柳　（久保に）なんで、佐野さんが、おるんや。
佐野　すみません、迎えに来たんです。
小柳　（久保に）なんや、そんな感じがか。

間。ほぼ同時に。

佐野　はい。
久保　いえ。
小柳　どっちや、ややこしいな。
久保　どしたんですか。店長。
小柳　資料つくらんなんがや。風呂と飯すましてきたんや。
久保　今日徹夜ですか。
小柳　いいげんそれは。見逃すさけ、早よ帰りなさい。
久保　はい。すんませんでした。
小柳　今度からちゃんと外で待ち合わせするんやぞ。
久保　佐野さん、先、駐車場行っといてください。

久保、出ていく。佐野、座る。

佐野　慣れました？
小柳　ん。
佐野　現場仕事、初めてちごいますか。
小柳　あぁ、ですね。入社して2年位は本店で店舗運営もやっとりましたけど、それきりですさけ。
佐野　その若さで現場すっとばして店長って、大変ですね。
小柳　なん、みんな、よぉやってくれますさけ。安心して任せられます。
佐野　なくなったら困るんですよ。うちとしても。
小柳　ん？
佐野　本店と鳥越の運搬で、相当世話になってますさけ。
小柳　なくなったらって、なんですか。
佐野　店長の赴任の理由が、店舗整理やって、噂やから。
小柳　誰がゆうとんですか。
佐野　いや噂ですから、誰とかでなく。
小柳　あぁ。なら噂ゆうより、ただの想像ですね。
佐野　そうなんですかね。
小柳　そら、うちみたいな出自の店長が突然赴任したらそんな想像されてもおかしない。
佐野　ならいいんですけど。もしそやったらかなわなんってだけです。すんません。

久保、戻ってくる。

久保　何しとんがですか。帰りますよ。
小柳　すんません。
佐野　なんすか。
小柳　不安な思いさせて。
佐野　いえ。
小柳　誰に何を聞いたんか知りませんけど。この店と、従業員の生活とを守るのが、私の仕事です。
　信じてください。
久保　信じてますよ。

三人、それぞれに、見合う。

溶暗

二場　晩秋

・昼　十三時

絹川が一人座って、パンをかじっている。
シャッターは開いており、そこから一面の紅葉。
せせらぎに混ざり、うっすらと鳩の鳴き声が聞こえる。
絹川、パンをちぎって、丹念に固く丸める。
立ち上がり、振りかぶって投球のモーション。そこに、小柳の声。

小柳　駄目！

小柳、入ってくる。

小柳　一緒やん。そこから投げても。
絹川　……。
小柳　我慢できんけ？
絹川　……。
小柳　せっかく、売り上げも客足も順調に伸びてるんや。慎重にしんなん時期やろ。
絹川　……。
小柳　みんなのおかげや。もちろん絹ちゃんも。

絹川、首を横に振る。

小柳　だから、ほんっと、お願いや。自分だけちごうげんぞ。
絹川　……。
小柳　生態系とかもあるが。人間がエサあげたらおかしなる。
絹川　関係ないと思いますよ。
小柳　んん。どうかな、わからんけど。あるがやないかな。野生やし。なんもしんでも、ちゃんと生
　まれてちゃんと生きてちゃんと死ぬやろ。やから余計なこと……。
絹川　野生ちごいます。川原でバーベキューとかデートとか散歩とかして、みんなエサあげてるさけ、

飼いバトです。途中で、放棄したらいかんがやと思うんです。
小柳　義務感でエサあげとんがか。

絹川、首を横に振る。

小柳　やんな。
絹川　生態系をもちだすんは、ちごうと思うんです。
小柳　あ、わかったわかった。それは、ちごうかもしれん。
絹川　……。
小柳　でもな、クレームきたんや。わかるがやんな。
絹川　はい。

小柳、座る。

小柳　旅館みたいがやろ。景色。
絹川　……。
小柳　みんなで、どっかいったりしんの。
絹川　あんまり。
小柳　山登りとか、ドライブとか。
絹川　……。
小柳　馴染みにくいか。みんなと。
絹川　いえ。
小柳　どしたん。
絹川　うちのじいちゃんがですね。
小柳　ん。
絹川　たのしみにしとるがです。ショッピングセンター。
小柳　あぁ、そうなんや。
絹川　マルコーどんだけやばいか、わからんがですかね。わからんがやろうけど。
小柳　いやいや、今絶好調やぞ。
絹川　ショッピングセンターできたら、ですよ。
小柳　この調子なら、大丈夫や。
絹川　仕事はどうしてでも続けんなんし。
小柳　みんなも一緒がや。
絹川　うちは家のことあるさけ余計です。ここやないと絶対無理なんがです。
小柳　そうか。そやなぁ。
絹川　うちからいわすと、店長すら、危機感ないみたいにみえます。
小柳　……。
絹川　山登り企画してくれませんか。
小柳　え、俺？

増田、入ってくる。

増田　店長、はよ。
小柳　あっごめんごめん。

小柳、立ち上がる。
増田、去る。

絹川　すみません、気にしないでください。
小柳　いやいや、そやな。やろか。
絹川　嘘です。できるなら、おいといてください。
小柳　ちゃんとあと３０分休むげんぞ。
絹川　はい。

小柳、去る。

絹川　３０分もいらんし。休憩。

絹川、立ち上がり、ハトを見る。
丸めたパンを握りしめる。
投球モーション。
パンを思いっきり投げる。
ハトたち、盛り上がる。
再び、パンをちぎって丸め始める。
猪原、八木が入ってくる。

猪原　絹ちゃんお昼。
絹川　はい。

絹川、丸めたパンを、一瞬躊躇しながらも、食べる。

猪原　ごめんやけど、ちょっとだけここいいがかな？
絹川　いいですよ。
猪原　ありがと。ぜんぜん、おって構わんから。
八木　すんません。
絹川　はい。

猪原、八木、座る。

猪原　見込みがおかしいって、どういうこと。
八木　強気すぎるんですよ。
猪原　それくらい見込まな、本店認めてくれんがいね。
八木　幼稚園の運動会のお弁当まとめて受けたがやないですか。
猪原　うち休んだ日な。ありがと。
八木　それはいいんですけど。当日の追加と合わせて１５０以上でましたもん。そやさけ、普通それ抜いて見込まんなんでしょ。
猪原　紅葉始まっとるし、客足のびるって。
八木　それは去年も同じとちごいます？
猪原　バイパスも開通するし。
八木　バイパスの効果は前年比５％もないって店長ゆうてました。

猪原　あのな。正直な話、本店から販促費確保しんなんやろ。鳥越店にちゃんとこれからも伸びしろあるってこと示さんといかんげんて。
八木　根拠のない上積みは危ないですって。
猪原　だから、根拠は説明したが。
八木　無理やり理由つけて上積みしてるだけがやないですか。
猪原　……だからな。
八木　私すら口説けないようじゃ、本店絶対口説けませんよ。
猪原　……あ、ごめんな。
絹川　いえ。
八木　ただ文句ゆうとるがとちごいますから。
猪原　わかってるって。
八木　私も、考えますさけ。
猪原　お弁当、食べてくれた？
絹川　はい？
猪原　惣菜部の新商品やん。商店街のコラボ弁当。
絹川　はい。
猪原　ほら、大和屋の朝採れキノコ牛丼とか。
絹川　長い名前の弁当ですね。
猪原　そうそう、そう。
絹川　大和屋って、ほんとに大和屋の肉つこてるんですか。
猪原　そやからコラボ弁なんがや。
絹川　売れてますよね。
八木　どんな人が買うとるがですか。
絹川　明らかに地元の人じゃない人とかも、けっこう買うてる。
八木　わざわざ買いにきとるがですかね。
猪原　ちごうか。すごない。
絹川　外したほうがいいですか。
猪原　なんなん。きかれてもいい話や。会議資料の会議なんや。
絹川　会議資料の会議。
猪原　鳥越店が絶好調やさけ。店長本店の会議に呼ばれて。偉いひとに説明するげんて。
絹川　へぇ。
猪原　やさけ来週のチーフ会議で各部門が分析したのを持ち寄ることになって。レジ部もやっとるよ。
絹川　なんや会議やってました。
猪原　惣菜部は、メイちゃんが部としての意見をとりまとめるげん。コラボ弁、メイちゃんの企画やさけ。
絹川　やるじぃ。
八木　みんなしてアイデアくれましたさけ。
猪原　その事前会議みたいな感じ。
絹川　会議のための会議のための会議のための会議ってことですね。
八木　え、あぁ、そんな感じです。
絹川　すごいですね。
猪原　すごいん、かな。
絹川　だって、会議のための会議のための会議のための会議が必要って、そんだけすっごい大事な会議ってことですよね。
猪原　まぁ。でも、なんか不毛な感じしてくるぞいね。

絹川　いえ。リンカーンでしたっけ。そんな感じのことゆうてませんでした。
猪原　あ、ちょっと似とるけど、全然ちごうね。
絹川　あぁあ、みんなして本気で店のこと考えとるのに。
猪原　どしたん。
絹川　ハトに餌やってしもた。
八木　あぁ。いいんですよ。そんなんでクレームなるがなんて、誰も思いませんて。
絹川　めっちゃ会議しとんのに。
猪原　いやそれは、なんか、やりすぎかなって思うし。
絹川　店長に怒られて。なんかめっちゃ腹立ててしもた。自分悪いのに。
猪原　なんなん。
絹川　慎重にしんなん時期なのに。台無しにして。
八木　そこまで思わんでいいですって。
絹川　めっちゃ会議しとるのに。
猪原　やから、会議はいいげん。ほんと。

久保、入ってくる。

久保　すみません。店長がチーフ全員集合って。
猪原　なに。
絹川　会議ですか。
久保　商店街の振興会長が来とるみたいですよ。
猪原　なんで。ちょっとごめん。

猪原、去る。

久保　メイちゃんも。
八木　うちもですか。
久保　あたりまえやん。行っといで。
八木　はい。

八木、去る。久保、座る。

絹川　戻らんでいいがですか。
久保　品物出したさけ。
絹川　はい。
久保　メイちゃんサブチーフなった途端に売上絶好調がやなぁ。
絹川　ですね。
久保　猪原チーフ反対しとった大和屋の肉つこた牛丼も、売れまくっとるし。
絹川　反対してたんですか。
久保　うちとメイちゃんだけむっちゃ盛り上がって。絶対いけるって。
絹川　なんでやろ。
久保　売れんがと思たんちごう。
絹川　でも猪原チーフ、八木さんのこと信頼してますよね。
久保　頭いいもん。
絹川　はっきり物言いえますし。

久保　本質みとるがや。
絹川　いちいち手際もいいんですよね。
久保　現場のこと考えてくれとる。
絹川　なんだかんだゆうていつも笑顔やし。
久保　かわいいもんなぁ。いや綺麗なんかな。かわいい。どっち。どっちも。
絹川　完全武装ですよね。
久保　……そやな。
絹川　はみ出しかけとるなぁ。
久保　うち。
絹川　あ、ごめんなさい。うちです。
久保　そんなことない思うけど。
絹川　ショッピングセンターと戦うぞ！ってなってからとちごうかな。それか、反対運動で盛り上がっとるころかもしれん。毎朝エイエイオーってやるようになって。うちもみんなと一緒にエイエイオーっなって。久保さんもエイエイオーってなって。みんなして気持ちようなって。でもうちはすぐにはぐれてしもてエイエイオーやなくなったさけ、いちいち痛いんですよ。エイエイオーってやるのにも、いちいちパワーがいる。というかエイエイオー自体どうなんって、思う。でも、エイエイオーでなければマルコーの店員であらずみたいな空気やし。
久保　うち、謝るところなんかな。
絹川　無理してますよね。
久保　なん。
絹川　意外です。
久保　マルコー好きやさけ。愛着あるげん。
絹川　うち、スカウトされたがです。
久保　なに。
絹川　ショッピングセンターの人に。
久保　へぇ。
絹川　内緒にしといてくれって、念おされたがですけど。
久保　どうゆうこと。
絹川　レジで名刺渡されて。会（お）うてくれって。会うたがです。
久保　なんて。
絹川　時給交渉乗るさけ、来年働きに来んかって。
久保　どうするが。
絹川　いけませんよ。うち、車ないさけ。
久保　そうかぁ。
絹川　じいちゃんのことも。
久保　やな。
絹川　骨埋める覚悟なんですって言いました。
久保　へぇ。
絹川　笑てました。あっちの人。

坪井、入ってくる。
久保、慌てて立ち上がる。

坪井　増田知らんか？
久保　店長がチーフ全員集合って。増田に聞きませんでした。

坪井　なん。
久保　あいつ。ひどいな。
坪井　どこ。
久保　店長室の前にいると思いますよ。振興会長が感謝状持ってきたんです。
坪井　会長が。
久保　商店街コラボ弁当あたったさけお礼って。贈呈式みたいながするらしいですよ。
坪井　よぉ来れたな。あの体で。
久保　息子さんが。車で。
坪井　わざわざ。
久保　行かないんですか。
坪井　行かんなんな。
久保　ごめんなさい。増田にきつくゆうときますので。
坪井　なん。
久保　惣菜部も精肉見習って、毎朝、水そうじやることにしたんです。
坪井　感心やな。
久保　いえ。

坪井、去る。

絹川　ハトのクレームの電話、誰がかけてきたか、知っとるがですよ。うち。
久保　え。
絹川　知っとるゆうたら、あれですけど。間違いないがです。
久保　誰。
絹川　三笠屋（みかさや）ですよ。
久保　なんでわかるが。
絹川　店の電話に着信番号残ってたが、見たんです。小さいころからよぉつこた店やさけ、すぐわかります。
久保　……え。
絹川　運動会のお弁当、いつも三笠屋が受けてたやないですか。
久保　うん。
絹川　うちらにとられて、悔しかったんちごいますかね。
久保　……ほんとけ。
絹川　なにがほんとけ、ですか。
久保　なに。
絹川　そんくらい想像できるがやないですか。
久保　いやぁ。
絹川　深刻になるような話ちごいますよ。
久保　悪いな、思て。
絹川　悪いな思うしかないがやないですか。目ぇつむって。
久保　……うん。
絹川　思てるがやないですか。ちゃんと。
久保　うん。
絹川　やから、いいんとちごいますかね。売れすぎてクレーム来たんですよ。すごないですか。
久保　すごいな。
絹川　さすがにこれで三笠屋つぶれんがと思うけど、もしつぶれても、別にうちらの時給あがらんが

ですよね。
久保　そらそうや。
絹川　お茶、奢ってください。
久保　え。
絹川　忘れたがですか。レジ対決、うちのが売り上げ多かったやないですか。
久保　あぁ、忘れとった。
絹川　だいぶたちますよ。
久保　ごめん買うてくる。
絹川　久保さんて。増田さんと、あれですか、やっぱ付き合うてるんですか。
久保　まさか。
絹川　ふうん。
久保　え！
絹川　付き合おうやって。ゆうてきてるがですよ。
久保　……へぇ。
絹川　でも久保さんと二股やったら嫌やなぁと思て。
久保　軽いなぁ。あいつ。
絹川　でも、なんか、う～ん、それもありかなぁとか思てしもて。
久保　ちゃんと考えや。
絹川　ちゃんと考えました。
久保　買うてくる。お茶。

久保、去る。
絹川、外を、ぼおっと眺める。
パンをちぎって、丸める。
投げる。
ハト、盛り上がって、近くに寄ってくる。
戸惑う。
久保、戻ってくる。
絹川にお茶を渡す。

絹川　ありがとうございます！
久保　エサ、あげたやろ。
絹川　すんません。

絹川、お茶をゴクゴクと飲む。

絹川　……お弁当美味しいって、よく言われますよ。
久保　そうなん。
絹川　レジ打っているときに。常連の人とか、声かけてくれるんですよ。
久保　へぇ。うれし。
絹川　うちもなんか、すっごい、うれしなります。

ハトの鳴き声、激しく。

久保　さ、がんばってくるわ。

久保、去る。
パンを丸める。投げる。
ハトたち、狂喜乱舞。

・昼下がり　一五時

小柳、感謝状を持ってきて、休憩室に飾る。
猪原が、入ってくる。

猪原　ちょっといい？話あるげん。
小柳　なに。
猪原　別れたんちごうが。
小柳　ん？
猪原　なんで、運動会きたが。
小柳　え。
猪原　何回もこんでいいゆうたが。
小柳　そやけど。
猪原　頼隆、あんたおったの気づいとったぞいね。
小柳　え、そうなん。
猪原　リレーんとき。ビデオ撮っとっとるの見たゆうとった。
小柳　驚かそうかと思たがや。ＤＶＤにして。
猪原　前の旦那もきとったが。
小柳　そうけ。ごめん、ややこしかったがか。
猪原　拗ねんな、そんくらいで。
小柳　拗ねてないわ。
猪原　あんたと、前の旦那と、うちと、お母さんと、４台や。
小柳　なにが。
猪原　ビデオ。
小柳　あぁ。
猪原　ＶＩＰすぎやろ。頼隆、リレー集中できんて文句ゆうとったぞいね。
小柳　お母さんなんで別が。また喧嘩したん。
猪原　そうや。頼隆のこと、前の旦那のこと、あんたのこと。
小柳　俺もなん。
猪原　むしろあんたのことばっかや。
小柳　なに。
猪原　一緒になればいいがゆうとる。
小柳　あぁ。
猪原　別れとるがやなのに。
小柳　え、だからそれはまた話しよて。
猪原　遂に手ぇ出たぞいね。
小柳　え。どっちが。
猪原　向こうにきまっとれんやん。
小柳　なんか、ごめんな。

猪原　ゴールの近くにおったがやろ。
小柳　え、あ運動会。
猪原　できたらＤＶＤ頂戴な。
小柳　もちろん。
猪原　一切編集なんてせんでええからな。
小柳　え。
猪原　そんな暇あったらな、家で寝とれ。
小柳　できるん、編集。
猪原　やってもらうから。
小柳　誰に。
猪原　拗ねんでええって。
小柳　拗ねてないわ。
猪原　ちょっとは休めゆうてるんや。
小柳　いやでも、店のことあるさけ。
猪原　あんたおってもおらんでも客増えたり減ったりしんて。
小柳　そんなこと言わんでもいいが。
猪原　ほんでな。話や。
小柳　まだなんかあるがか。

猪原、座る。

猪原　チーフ、降ろしてくれんがか。
小柳　はぁ？
猪原　お母さんのことあるさけ、病院とかで急に休まんなんこと多いやろ。
小柳　そんなんしゃあないやろ。
猪原　メイちゃんおるやろ。
小柳　無理や。
猪原　無理とちごう。よぉできる。
小柳　そらそやけど。若すぎる。経験なさすぎや。
猪原　支えるがいね。
小柳　そんなことゆうてもやな。
猪原　メイちゃんな、本店の役員連中にも、ものすごい気に入られてるが。あほみたいな話かもしれんけど、正直販促費も取りやすなるげんて。
小柳　断る。
猪原　なんで。
小柳　チーフは猪原さんや。急に休むんも含めて。俺が支える。
猪原　……あのな。
小柳　ん。
猪原　仕事探そうかなとも、思とれん。
小柳　は？
猪原　材木屋の社長がゆうとったがやけど。事務員の人が入院ばっか繰り返してて、困っとるらしいげん。
小柳　へぇ。
猪原　その人もしやめたら、うち、どうかって。
小柳　……。

猪原、立ち上がる。

猪原　止めんのんか。

小柳　止めるよ。

猪原、去る。

小柳、仕事を始める。

・夕方　１７時

坪井やってきて、感謝状をじっと見ている。

それに手を伸ばし、手に取る。

じっと見る。

ぽとり、と、落としてしまう。

と、同時に佐野が入ってくる。

佐野　……今日の最終です。

坪井、入ってきた佐野を見る。

佐野　搬入しますんで、シャッター、開けていいですか。

坪井、うなずく。

坪井、足元の感謝状を拾おうとするが、

先に、佐野が拾う。

佐野、感謝状を読む。

佐野　へぇ。

佐野、感謝状をも片手にもったまま、シャッターのボタンを押しに行く。

シャッターが開きはじめる。ヒグラシの鳴き声。その隙間に薄くせせらぎ。

佐野、感謝状を見ながら。

佐野　すごいなって思いますわ。坪井さんのこと。

坪井　ん。

佐野　坪井さんの親父さん、マルコーに殺されたみたいなもんでしょ。

坪井　……なんでや。

佐野　坪井精肉店。親父さんやっとったでしょ。

坪井、佐野を見る。

佐野　うち、わりと常連やったがですけどねぇ。

坪井　（少し笑って）覚えとるよ。

佐野　なら声かけてくださいよ。

坪井、立ち上る。

坪井　コーヒー、飲むがやろ。

坪井、出ていく。

佐野　いやいや搬入ありますさけ。
坪井　なら、持って帰れ。
佐野　そんなつもりちごいますよ。
坪井（大きな声）　おっきなったなぁ。
佐野　おっきなったもなにも、三十年位たちますよ。

佐野、感謝状を机の上に置く。
坪井、缶コーヒー１つを手にして戻ってくる。佐野に渡す。

佐野　ありがとうございます。

坪井、机の感謝状を手に取る。

坪井　時代やな。
佐野　マルコーできて。坪井さんとこだけやなく、商店街の店、どんどんつぶれてって。
坪井　いつの話しとんや。
佐野　うちも。親、商売やっとたんです。
坪井　なに。
佐野　洋菓子屋です。
坪井　あぁ、あったな。
佐野　何年かはもっとったんですけどね。だめで。
坪井　昔のが容赦なかったぞいや。出店する方も阻止する方も。
佐野　よぉ、働きに来ましたね。マルコーに。
坪井　いかんか。
佐野　変な意味やなく。
坪井　なんや。
佐野　僕はね。マルコーと取引してるってこと。ずっと考えさせられてるんです。
坪井　しょうもない。
佐野　考えてしまいませんか。
坪井　なん。
佐野　大和屋の牛丼とかで盛り上がって。
坪井　あっちは昔からええ肉取り扱（あつこ）うてたさけな。生き残れたがや。
佐野　そんなんちごて。坪井さんおんのにですよ。誰も知らんがですね。
坪井　ずいぶん昔やさけな。
佐野　そうですけど。
坪井　誰が悪いゆうんや。
佐野　誰ですか。殴ったりますわ。

坪井　あほやな。
佐野　頭ではわかっとるがですよ。でもやっぱ、マルコーできて、明らかにおかしなりましたもん、うちの家は。坪井さんとこもでしょ。
坪井　ぶつくさ言わんと働け。
佐野　女に振られようが、親亡くそうが、なんか仕事はしんなんですからねぇ。
坪井　ちっさい、ガキんちょやったのにな。かわいそうに。
佐野　……涙もろすぎでしょ。
坪井　いや。
佐野　もったいないっすよ。こんな心貧しなってしもた奴には。

佐野、缶コーヒーをもって立ち上がる。

佐野　今日、搬入けっこう多いんですよ。手伝っていただけたら。
坪井　図々しいな。
佐野　冗談ですよ。俺も思いますわ～。そんななれ合い嫌や。

佐野、荷物を取りに去る。
坪井、感謝状を元の場所に戻す。
極めて小さな声で音読する。

坪井　感謝状。マルコー鳥越店殿。貴店は「商店会コラボ弁当」で鳥越商店街の知名度向上、にぎわいの創出に貢献し……（黙読となる）……心より感謝の意を表します。

・二十二時

久保に連れられるように、増田入ってくる。
絹川と八木、続いて入ってくる。
増田、椅子に座らせられる。
増田を囲むように、久保と絹川と八木。
久保、増田に対して、八木と絹川を並べて。

久保　何人に手ぇ出すつもりがや。
増田　そんなつもりないって。
八木　ドライブイン行っただけですから。
久保　女子ネットワークなめんな。
増田　女子て。
久保　死にたいんか。
増田　死にたない。
久保　ついに、うちにまで手ぇ出してきてしもて。あんた末期や末期。
絹川・八木　え？
久保　ほんっとごめんな。
絹川　え、手出したって。出されたってことですか。
久保　ちょっとや。

八木　え、ちょっとって。
久保　期間や期間。過去や過去。
絹川　ちょっと、どういうことですか。
久保　根掘り葉掘り聞かんといて。
絹川　ほんとですか。
久保　いい加減な。
増田　いい加減ちごうわ。みんなちゃんと興味あってや。
久保　なんや興味て。
増田　から揚げの揚げ具合とか。
久保　はぁ？
増田　いや冗談やなくて真面目に。だって、すげーうまいもん。昼飯買（こ）う時とか、わざわざ久保さん揚げとるの狙ろとるし。うまい。あぁ、実にうまいなあ。が転じて。
久保　転じて。
増田　愛に変わるがや。ゆうとくけど、かわいいから、うまいんやないげんぞ。
久保　はぁ？
増田　うまいから、かわいいんや。
八木・絹川　……え？
久保　……そうかぁ。

八木、絹川、どこか納得したような久保に驚き。

八木・絹川　……え？
増田　絹ちゃんも、一緒や。
絹川　なんですか。
増田　レジがな。あぁ、流れるようで美しい。あれを機能美っていうんやろなぁが、機能美……あぁ機能美、が転じて。
久保　転じて。
増田　だから愛に変わるがや。
久保　なにを自信満々にゆうとんがや。

増田、八木を見る。八木、警戒する。

八木　私ちごいますから。ちごいますよね。
増田　メイちゃんの分析すっごい緻密やん。
八木　ほんとやめてください。
増田　あぁ緻密やなぁ、緻密やなぁが、たまらんくなるんやなぁ。
久保　ふざけんな。
増田　窮鼠猫を噛むや。
久保　まじで意味わからんし。
増田　あら。
久保　なんや。
増田　猫で。猫を噛むとか、思うと、ちょっと興奮するげんけど。
久保　訴えるぞ。
増田　なんで好きになったんかなぁをつきつめていくと、あほみたいやけどそうなんや。
久保　なんかあって。レジ遅なったらどうするが。

増田　ん？
久保　絹ちゃんのレジ遅なったら、捨てるがかまた！ハムスターみたいに！
増田　はぁ？
久保　ハムスターあんたちごうわ！
増田　何の話や。
八木　久保さん、いいですから。
増田　そや、出しゃばりすぎや。
久保　そこそこ仕事できる社員のサブチーフに言い寄られたら、新人ってのはコロっといくもんなんや。
増田　そこそこゆうな。
絹川　うち、もう、半年経ちますから。
久保　なんであんたがこんなもてないかんが。
八木　私ちごいます.って。
久保　世界中のモテない男子に謝れ今すぐ。
増田　なんでや。
久保　あぁくだらん。増田くだらんよ。すげーいい大学でてこんなスーパーに就職したもんやさけ、規格外の新卒とかいわれて、すげーちやほやされて。うまくいかんなってきたら、こんなことしかすることないがか。やけくそか。やけくそで言い寄ってきたんがか。

増田、立ち上がる。考える。

増田　規格外の新卒やぞいやあ。
久保　……。
増田　規格外なのは、学歴だけじゃないげんぞお。
久保　なんなん。
増田　仕事もデキル、最年少サブチーフげんぞお。
久保　残念やったな。
増田　プライベートも充実しとるしなぁ。彼女おらん時期とかないし。
絹川　大丈夫です。
増田　大丈夫って。
絹川　自分で規格外ゆうてる時点で完全に規格内ですから。
増田　……規格内の新卒やぞいや。
久保　あんたが、しっかりせんと、どうすんの。
増田　俺がマルコーの救世主的なやつか。
久保　そうや。そのくらいやってくれ。
増田　完全に規格内の新卒やぞいやあ。
久保　何すねとんや、お前。
増田　お前ってなんや！

増田の声に、久保・絹川、警戒する。
八木、毅然として。

八木　うち、頑張りますさけ。支えます。マルコーは大丈夫です。

八木は自身と覚悟に満ちている。

久保はそれが少し眩しく感じ、落ち込んでしまう。

溶暗

三場　真冬

・朝　八時半

小柳と久保、向かい合わせに座っている。

小柳　……は？やめる？
久保　はい。
小柳　なんで。
久保　スカウトされたんです。
小柳　スカウト？
久保　ショッピングセンターの人に。
小柳　え？
久保　はい。
小柳　どういうこと。
久保　何人か声かかってますよ。
小柳　時給いいがんか。
久保　はい。
小柳　いくら。
久保　百円違います。
小柳　百円。
久保　しかもチーフ候補。
小柳　いつから。
久保　来年入ってから、研修が始まるらしいです。
小柳　……そう。
久保　止めんがですか。
小柳　止めるが。
久保　止めてみてください。
小柳　え。
久保　どうぞ。
小柳　……きついよ。仕事。
久保　どこ情報ですか。
小柳　業界で有名がや。
久保　生活を守れそうにない頼りない優しい店と、生活は守ってくれそうだけどめちゃくちゃこき使われる店やと、やっぱ。
小柳　守れそうにないって。
久保　守れますか。売り上げ、物凄い落ちてるやないですか。
小柳　冬やさけな。
久保　去年の冬より落ちてますよ。
小柳　今年雪おおいから。

久保　本店が全然支援してくれないからですよ。
小柳　頼んどるげんけど。あっちも、競合激しいさけ。手一杯みたいで。
久保　思うんですよ。ショッピングセンターなんかできなくても、ほおっておいても、老衰みたいに、静かに息を引き取るんやないかなって。うちら。
小柳　……。
久保　止めんがですか。
小柳　止めるが。
久保　このご老体に、ショッピングセンターは、きついですよね。
小柳　やからこそ、みんなでがんばらんなん。
久保　容赦ないですよあっち。値段も、質も。がたいでかいさけ、仕入れも叩いて、メーカーから販促費とかイベントとかバンバン取り付けて、安くていいものを売るんです。広告打もちまくりで。鳥越からバスまで出すらしいがやないですか。
小柳　良いものかわからんぞ。
久保　商店街のど真ん中に、送迎バスの停留所までできて。三笠屋の駐車場つこうんですよね。
小柳　よぉしっとるね。
久保　会いましたもん。ショッピングセンターの担当の方に。
小柳　会うたがか。
久保　というか、これまでが温室すぎたんですようちが。はっきりゆって、高いし相場より。老舗ぶって、安住して、一般的な競争社会の努力を怠ってきたんです。三十年やってるのは凄いけど、結局本店と鳥越の二店舗どまりやないですか。地域密着なんて言い訳で、密着するしかなかったんですよ。ひょっとして、町の人、本音は喜んどるんとちごうかなって思うんです。ユニクロとか、ケーズデンキとか、すごいやないですかこんな近くにできたら。うれしいですよ普通に。いち住人として、どう考えてもそっち行きますよ。競争原理から冷静に考えれば、淘汰されるべき店なんです。
小柳　って、言われたが？
久保　はい。
小柳　そうか。
久保　むかつきませんか。
小柳　かなり、むかつくね。
久保　専属契約農家とかゆうて、絶対に、外国の人に酷い仕事させてつくらせてるがですよ。あいつら。
小柳　どこ情報。
久保　ネットです。
小柳　ああ、でもありえる。
久保　やけど、うち、仕事。これしか知らんし。
小柳　そんなことないて。
久保　商店街の人らと一緒になって、地元の食材つこて惣菜つくって。マルコーやっぱ最高ですよ。
小柳　ありがと。
久保　お礼ゆわれる筋合いないです。うちの方が圧倒的に長く居ますさけ。
小柳　……。
久保　止めてみてくださいよ！
小柳　やめんといてっ！
久保　ガッツだけやじ。
小柳　……。
久保　鳥越店、たたむがですか。
小柳　なんで。

久保　たたむがや。
小柳　そんなことゆうてた。
久保　はい。とっくに噂になってます。
小柳　そう。
久保　本店にみんなで異動とかできませんもんね。
小柳　……。
久保　できても遠いし。一時間はかかる。
小柳　……。
久保　向こうは向こうで、人いますもんね。
小柳　……。
久保　言えませんよね。店長は。
小柳　……。
久保　言えませんよ。会社ですから。発表できるようになるまでは。
小柳　……。
久保　でも、パートさんとかいっぱいいますさけ。みんな生活かかってます。はよ発表してあげんと。
　急にゆわれても困る思うんです。
小柳　……。
久保　いえ。店長悪いがやないです。
小柳　いや。
久保　店長って、大変ですね。
小柳　なん。
久保　コドクですよね、なんか。
小柳　……まだ。
久保　なんですか。
小柳　決まったわけやないげん。
久保　……マルコーには。もちろん店長にも。ほんとうに感謝しています。

小柳、じっと、している。久保も。
久保、深々と礼をして、出ていく。

小柳　どうせゆうんや。

坪井が入ってくる。ノートパソコンを持っている。

坪井　おはようございます。
小柳　なんですかそれ。
坪井　パソコンです。

坪井、パソコンを開く。

小柳　わかりますけど。
坪井　増田がプレゼントしてくれたがです。
小柳　増田が。
坪井　チーフは、パソコン覚えんなんって。
小柳　へぇ。

坪井　教えてやるさけって。
小柳　増田がですか。
坪井　そうですよ。
小柳　いや。いいとこありますね。
坪井　困りますよ。
小柳　え。
坪井　もろたからには、覚えんなんし。

坪井、操作する。

坪井　朝練です。増田のノルマ。
小柳　ストーブの灯油切れかけとるさけ、入れときますね。

小柳、扇風機のスイッチを入れる。

坪井　ん。
小柳　空気回したほうが温いですさけ。
坪井　あぁ。
小柳　いつも、苦労かけます。すんません。

小柳、出ていく。

坪井　……わけわからん。

坪井、頭を抱える。
坪井の携帯が鳴る。慌ててとる。
周りをうかがいながら。余所行きの対応だ。

坪井　坪井です。おはようございます。……はい。……はぁ。……そうですか。……わざわざ、ありがとうございます。

電話を切る。
坪井、パソコンに向かい何も操作せず、固まっている。
久保、入ってくる。パソコンを見る。
ほとんど動かない坪井をしばし見る。
久保、不意に笑って。

久保　パソコンやなくて、坪井さんが固まってますけど。

坪井、久保と目が合う。
パソコンを閉じる。
久保を見る。

久保　なんですか。

坪井、何も言わない。

久保　なんなんですか。

坪井、何も言わない。

久保　どしたんですか。

坪井、何も言わない。

久保　坪井さん、うち。

坪井　ん。

久保　やめます。マルコー。

坪井、うなずく。

久保　ショッピングセンターに行きます。

坪井、うなずく。

久保　ごめんなさい。

坪井、首を振る。

久保　坪井さんのこと、尊敬してます。

坪井、久保をじっと見る。

久保　なんですか。

坪井、久保をじっと見続ける。

久保　なんですか、ちょっと怖いんですけど。

坪井、立ち上がる。

久保　泣いてます？

坪井、出ていく。

久保　坪井さん。

・夕方　十七時

久保、かっぽうぎを胸に。扇風機をじっと見ている。
増田、駆け込んでくる。

増田　店長しらん。
久保　しらん。

増田、走り去る。

久保　どしたん。

久保、かっぽうぎの臭いを嗅ぐ。
佐野、入ってくる。

久保　なんでまだおるんですか。
佐野　県道通行止めやって。
久保　めっちゃ雪多いもんな。
佐野　事故あったみたい。
久保　バイパスできるの憎かったけど、これからは、こんなときにでも陸の孤島ならんですむがですね。
佐野　立場変われば、やな。

久保、立ち上がる。佐野の真正面へ。
深呼吸を一つ。

久保　ひっぱたいて、いいですか。
佐野　気ぃ悪した。
久保　いいですか。
佐野　嫌に決まってるがや。

久保、そのまま。

佐野　なんの匂い。
久保　ん。
佐野　それ。
久保　いつもの。油臭い。
佐野　お疲れ様。
久保　はい。
佐野　みんなにも、ゆうたがか。
久保　はい。
佐野　他にもおれんろ。
久保　ん。
佐野　あっち行く人。
久保　はい。
佐野　そらそやろな。
久保　坪井さんに、やめるってゆうたら。

佐野　うん。
久保　……泣いた。
佐野　へぇ。
久保　号泣。
佐野　え？
久保　子供みたいに。

増田、入ってくる。

久保　おった？店長。
増田　おった。
久保　なんなん。
増田　坪井さん大変なんがや。
久保　なに。
増田　ぐっしょぐしょになってて。
久保　なんで。
増田　バケツの水、おもいっきりかぶったさけ。
久保　は？
増田　修行僧みたいに。
久保　なんで。
増田　滝で修行するが。修行僧。
久保　ちごうわ。なんで、かぶるん。
増田　知らんよ。
久保　いつ。
増田　ついさっき。泣いてて。坪井さん。
久保　泣いてたな。
増田　知っとん。
久保　うん。
増田　なんで。
久保　うちが泣かしたさけ。
増田　は？
久保　挨拶に行ったら、泣いた。
増田　よほど寂しなったんかな。
久保　にしてもや。
増田　坪井さんに優しいさけな。久保さん。
久保　だからってなんで水かぶるん！わけわからんやん。
増田　知らんよ。泣いてて。あれ、泣いてるなって思て。
久保　うん。
増田　あれ、泣いてます？って聞いたら。
久保　うん。
増田　掃除のバケツに水入れ始めて。
久保　うん。
増田　あぁ、バケツがバケツに水入れとるわ。なんしとれんろーって見とったら。突然。
久保　かぶったん。
増田　うん。思いっきり。真冬の水を。頭から。

久保　なにそれ。照れ隠し？
増田　え、照れ隠しなん？
久保　泣いてるの、見られたから。
増田　斬新やなぁ。
久保　斬新すぎるやろ。
増田　で、もう一杯。
久保　かぶったん。
増田　かぶろうとしたから、バケツとりあげて。
久保　うん。
増田　バケツ蹴り割って。
久保　そこまでせんでも。
増田　そこまでせな収まらん勢いがあってん。
久保　へぇ。
増田　取りあえず、店長に引き渡した。
久保　今、店長と一緒。
増田　うん。
佐野　劣等感の塊やな。
久保　なに。
佐野　坪井さん。

久保、佐野の解釈に苛立つが耐えて。

久保　増田いじめるからや。
増田　ちごうわ。尊敬しとるよ。坪井さん。
久保　まじで。どの口が言う。
増田　職人として。
久保　それであれだけ言うか。
増田　久保さんに裏切られたからや。
久保　そんなんゆうな。
佐野　……ゾンビやな。
久保　なにが。
佐野　坪井さん。
久保　生きてるし。
佐野　自分の店マルコーのせいでつぶれて、そんでうちに働きにきとんがやさけ。
増田　え、そうなんですか。
佐野　親父さんもそれで亡くして。
増田　それでって。
久保　いいやん。その話。
増田　……ゾンビやな。
久保　よぉ言うなそんなこと。
増田　上手いことゆうたと思うんやけど。
佐野　僕がゆうたんですけどね。

小柳、入ってくる。

増田　坪井さんは。
小柳　帰ってもろた。
増田　どうでした。
小柳　すんません。って。何回も何回も。
増田　いいですけど。

小柳、座る。

小柳　まぁ、いろいろあるわ。
久保　……落ちたんですか。
増田　ん、なに。
小柳　……そやな。
久保　そうですか。

久保、立ち上がる。

佐野　あぁ、ショッピングセンター。
増田　受けてたんですか。
久保　坪井さんのこと、勝手に変に想像して決めつけたらいかんがやないかと思います。

久保、出ていこうとする。
佐野、立ち上がり。

佐野　自分もやぞ。

久保、出ていく。

溶暗。

四場　春

・正午　十二時

雪解けで、川の流れが激しい。
絹川が、パンの屑を丸めて投げる。
時おりパン屑を投げながら、絹川のモノローグ

近づくと、
そのずぶ濡れのハトは、
湿ったゆっくりの羽音で低く短く飛び去りました。
ほんとうは、もう、とっくに飛べないはずなのに。
そのハトは、自分は飛べるという確信の力で見事飛びました。

その姿に哀れさの欠片も感じることが無かったのは、
自分は飛べるという、確信の力です。
その姿が、どのハトよりも勇ましく映ったのも、
自分は飛べるという確信の力です。
どうか。
どうか。若いハトたち、厳しい自然。
あのハトの確信に、疑念を抱かせたりしないでください。
ほんとうはもう、昔とは違う、弱い生き物になっているなんていう、
わかりきった現実をわざわざ突きつけたりしないでください。
それがたとえ、自然の摂理で、あるべき結果だとしても。
私は、もう少しだけ、あのハトが見事飛ぶ姿を、
眺めていたいのです。

モノローグ、ここまで。

絹川、ハトにどしどしパンの屑を投げ続ける。

五場　夏

・昼　十三時

蝉が全力で鳴く。夏真っ盛り。
八木と坪井、食べかけのおにぎりを手にもっている。

坪井　……うん。

どういうわけか、八木のスイッチが入る。
八木、努めて冷静に、おにぎりを、包装フィルムの上に置く。

八木　……なんで、うん、なんですか。
坪井　うん？
八木　どうしたらいいがですか、に、うん、ってどういうことですか。
坪井　うん。
八木　うっとおしいですか。私。
坪井　いや。
八木　言っときますけど坪井さん、うん、とか、はい、とか、むちゃくちゃ多いですから。
坪井　うん。
八木　坪井さんしかいなくて坪井さん頼りにして坪井さんに聞きたくて話してるんです。なんで、坪

井さんないがしろにしてる増田とか坪井さんには一歩も踏み込んでこない店長とか口を開けば業務上の話しかしない猪原さんとか何考えとるかわからない絹ちゃんとか。そんな人らとの話と、私のこの全力投球の話とがまったく同じリアクションになるんですか。なんでなんですか。

坪井、おにぎりを、包装フィルムの上に置く。
満を持して反応しようとする。が、八木、それより早く。

八木　おにぎり一個ってのが気に食わないですか。おにぎり一個でいいってゆうたの坪井さんやないですか。というかおにぎり一個もいらんゆうたやないですか。そこをむりやりおにぎり一個渡したんやないですか。二人でランチなんてはじめてやないですか。生まれて初めてやないですか。ちょっとは特別な感じしないですか。なんでそんなまったくもってまったく普段通りなんですか。そんなんやから、坪井さんの人生そんなんなんとちごいますかね。うんはいうんはいって。流されっぱなしで、ずるずるずる。すんません！言いすぎました。
坪井　どしたん。
八木　すんません。
坪井　いいから。
八木　駄目やと思うんです、うちら。ショッピングセンターオープンしてからの、閑古鳥の鳴きっぷり。半端ないです。
坪井　うん。
八木　十羽や二十羽ちごいますよ。
坪井　なに。
八木　閑古鳥。

坪井、閑古鳥の大群を空想し、うまくいかず、おにぎり食べる。

八木　たとえ話ですよ。
坪井　わかっとる。
八木　何やってもうまくいかんくて。深刻な事態は遠慮なくやってきてて。全部焼け石に水で。こんなこと。坪井さんなら、ゆうたらほんっと失礼なんですけど、ありますよね。

坪井、笑って。

坪井　ほんと、失礼やな。
八木　笑てるばあいですか。
坪井　すまん。
八木　藁にも縋る思いなんです。
坪井　それも失礼やぞ。
八木　すんません！

坪井、食べる。
それを見て、八木も食べる。

八木　増田さんは。今日全然見てないんですけど。
坪井　セミ取りに行った。
八木　セミ？

坪井　うん。
八木　セミを取りに行ってるんですか。仕事中ですよ。
坪井　あんまり暇やさけって。
八木　本気で許しがたいんですけど。
坪井　うちらも、ピクニックやろ。これ。
八木　ランチです。ちゃんとした休憩です。

坪井、食べる。
それを見て、八木も食べる。

坪井　バーベキューセットって、どうかな。
八木　なんですかそれ。
坪井　新しい商品で。みんなバーベキューやっとるやろ。この川原で。
八木　はい。
坪井　売れるんちごうかなって。
八木　なんか、坪井さんらしくない、商品ですね。楽しげで。
坪井　うるさいわ。
八木　すっっごい普通ですね。それ。
坪井　まぁ。
八木　なんでそんなんすらやってなかってんろ。うちの店。

八木、ハトに餌をやる。
ハトたち喜ぶ。

坪井　こら。
八木　ええやないですか。
坪井　みつからんようにな。
八木　びっくりカツ丼ミニなんですけどね。
坪井　売れてないげんな。
八木　最近ツイッターで、ほんの少し、話題になってましたよ。
坪井　へぇ。
八木　迷走商品やって。中学生が笑いながら、写真とってましたもん。あいつらですよ。
坪井　そっか。
八木　むっちゃバカにされた気分で。
坪井　はは。
八木　でもほんと迷走しとる。ちゃんと判断できてない。
坪井　あんま、背負わんと。
八木　すんません。

坪井、食べる。

八木　なるほどねぇ。バーベキューセットですか。
坪井　あぁ。
八木　天才やじ。坪井さん。

坪井、食べる。

絹川　いま、ちょっと鼻ふくらみましたよ。

・昼　十五時

増田、やってくる。

増田　リモコン知らん。
八木　なんのですか。
増田　エアコンやん。
八木　どうでもええやないですか。
増田　せっかくエアコンついたんやさけ。意味ないぞいや。
絹川　これ、ほんと店長の自腹なんですか。
坪井　あれ。
八木　今気づいたんですか。今朝工事してましたよ。
増田　自分でゆうてたし。嘘ちごうやろ。
絹川　そんなことします？
増田　士気向上するぞいや。
絹川　これ普通に自宅用ですよね。
増田　業務用なんて高こて無理やろ。自腹やぞ。
絹川　なんで今なんですかね。
増田　ショッピングセンター偵察に行ったついでにケーズデンキで買うたんやって。
絹川　完全にミイラ取りがミイラのパターンやないですか。
増田　エアコンはいいんとちごうか。うちで売ってるわけやないがやし。
絹川　うち的には、ナシです。
増田　拘るなぁ。
絹川　あと、最近、うちの従業員のユニクロ率とか、ちょっと許せないもんがありますよ。

増田、八木、坪井、互いの服を意識しあう。

八木　絹ちゃん、まだ行ってないん。
絹川　行きましたよ。
八木　なんか買うた？
絹川　買（こ）うわけないやないですか。
八木　なんしに行ったん。
絹川　久保さん。おるかなって。
八木　おった？
絹川　おりませんでした。でも。
八木　なに。
絹川　惣菜の所に、朝摘みトマト牛丼っていうのが売っとって。
八木　え。
絹川　これって、久保さんの仕業ですよね。
八木　……ふうん。

小柳、入ってくる。

小柳　なんしとん。みんなして。仕事しぃや。
増田　店長、エアコンのリモコン知りませんか。
小柳　え、あ、持ってるわ。
増田　なにしとんですか。
小柳　ごめん。自慢しよう思て。見せて回ってたがや。
増田　子供ですか。
小柳　スイッチいれる？
増田　入れますよ。
小柳　みんな集める？
増田　いいですよ。
小柳　初運転やぞ。
増田　たかだかエアコンやないですか。はよつけましょうよ。
小柳　最新機種やぞ。
増田　買うたばかりなんですから、当然でしょ。
小柳　じゃ、いくぞ。
増田　ほんっと、はよしてください。

小柳、エアコンにリモコンをまっすぐに向ける。

小柳　あ、扇風機もういらんがやな。
増田　いらんけど、先にエアコン。
小柳　もっと盛り上がろうや。
増田　すっげー盛り上がってますよ。
小柳　じゃ、こんどこそ。

小柳、エアコンにリモコンをまっすぐに向ける。

小柳　つけるよ～。
増田　もったいぶる必要性あります？
小柳　3、2、1、ピ。

小柳、エアコンのスイッチを入れる。
一同、固唾をのんで、涼しい風を待つ。
なかなか出てこない。

八木　今、口でいいましたよね。ピって。ほんとに押しました？
小柳　押したって。そんなしょうもないことする思う？
八木　思います。
増田　ついてる。ほら、ランプ緑やろ。
小柳　すぐには風出ないって。慌てんな。
増田　しってますよ。

小柳、扇風機を持ち、出ていこうとする。

坪井　あ、出しときますよ。

坪井、小柳から扇風機を受け取り、出ていく。

小柳　どう。
八木　きた。
増田　きたな。
絹川　きましたね。
増田　早いな。風でるの。
小柳　最新機種やさけな。
絹川　……きもちい。
小柳　最新機種やさけな。

小柳、得意げな顔。
坪井、戻ってくる。
それぞれ、エアコンの冷たい風を堪能する。

・翌朝　八時

誰もいない休憩室。
ややあって、小柳入ってくる。
手に新聞を持っている。
新聞をテーブルに置く。
シャッターのスイッチを押す。
シャッターが開く。川のせせらぎが入り込んでくる。
猪原、入ってくる。シャッターが開いていることを気に掛ける。

小柳　小雨やさけ。
猪原　それはいいけど。
小柳　なに。
猪原　開けっ放しすんなて注意しとる店長が、一番開けっ放しにしとるって、知っとる？
小柳　え。
猪原　みんなゆうとるが。
小柳　ゆうてよ。
猪原　店長やさけ、気ぃつことるんちごうか。
小柳　そんなん、いらんし。
猪原　降るよ。今日。
小柳　しっとる。
猪原　ちゃんと閉めといてな。
小柳　閉めるよ。
猪原　今いいって。空気いれかえな。
小柳　うん。

小柳、テーブルに戻る。

猪原　頼隆のランドセル、遂に３つになったわ。
小柳　え。
猪原　お母さん、買うてたんや。見つけてしもた。
小柳　ご家庭の連携が全然足りてないね。お宅。
猪原　ほんとやよ。
小柳　どうするん。３つも。
猪原　しらんよ。

小柳、新聞を猪原に見せる。

小柳　オープン初月、来店者数三十万やって。
猪原　三十万！
小柳　書いてある。
猪原　ほんとなん。
小柳　ほんとちごうかな。新聞やし。

猪原、新聞をじっくりと読む。事態を飲み込んで。

猪原　これ競合ゆうの。
小柳　……。
猪原　絶望的やん。
小柳　……。
猪原　なぁ。
小柳　考えとるよ！
猪原　やめよ、それ。
小柳　ん。
猪原　考えるの。
小柳　なわけには。
猪原　楽んなろ。
小柳　……。
猪原　深呼吸して。
小柳　は？
猪原　なんで驚くんやろなぁ、こんなことに。いちいち。
小柳　なに。
猪原　だって、そりゃ、そのくらいの見込みなんてもともと新聞でも書いてたやん。
小柳　まぁ。
猪原　それでも、なんか現実感なかったんや。なんとかなるんとちごうかなって、本気で思てしもてた。でも、根こそぎ向こうにいっとるってことやん。ちゃんときっちり起こるんやん。想定される事件ってもんは。
小柳　……。
猪原　勝負ならん。楽になろ。
小柳　なに。

猪原　全力で白旗ふるんや。エイエイオーをやめてやな。みんな～、無理やよ～、退散～って。
小柳　……うん。
猪原　なに。うんって。
小柳　うんって。うん。
猪原　ふるの、白旗。
小柳　……うん。
猪原　店長が。
小柳　本店。
猪原　いつ。
小柳　数日後。正式に振る。白旗。
猪原　あんた。やっとゆうの。
小柳　鳥越から撤退する。
猪原　いつ。
小柳　９月２７日。
猪原　はっきりいうね。
小柳　うん。
猪原　わかっとったよ。
小柳　……。
猪原　でもそうやないかもって、期待してしまっとった。うちは。
小柳　うん。
猪原　いつから決まっとったん。なんて野暮なことは聞かんわ。
小柳　……。
猪原　ちなみに、噂だけなら、去年の夏から。オープンきまった頃にはもうあったぞいね。
小柳　そうか。
猪原　店長は店長やさけ。ゆえることとゆえんことあるのわかるよ。でも、やっぱ、こんなになるなんて、思えんかった。店長がいけるゆうたら、いける思うもん。店長やよ、あんた。船長なんよ、店長。
小柳　ん？
猪原　たとえていうなら、船長なんよ、店長。
小柳　……。
猪原　今日の朝礼、なにゆうの。今日もまた、いつもと同じく、エイエイオーってゆうの。昨日はゆうてたもんね。残念ながら、それでも何人か信じてしもうんよ。それ。
小柳　うん。
猪原　ゆうてみ。一丸となって頑張ればなんとかなるって。お店、大丈夫やって。
小柳　え。
猪原　ゆうてみいや。
小柳　なにを。
猪原　大丈夫やって。
小柳　はぁ。
猪原　ゆうてみって。
小柳　……大丈夫や。
猪原　……ほらみてみ。こんなんでもちょっと信じてしもた。今、うち。
小柳　……。
猪原　嘘つきや。
小柳　……。

猪原　でも、新聞で知るより千倍嬉しいわ。
小柳　……ごめん。
猪原　そっかぁ。
小柳　そう。
猪原　どうしよ。
小柳　なに。
猪原　仕事。生活にきまっとれんやん。
小柳　うん。
猪原　本店とか無理やし。お母さんおらんなってしもたさけ、遠くまで働きにいけん。

雨足強まる。
小柳、シャッターのスイッチを押す。
シャッターが音を立てて閉まる。
閉まりきる。
空気の流れが止まる。

猪原　……お母さんの部屋、ずっと片づけられんかったんや。
小柳　そう。
猪原　こないだ、やっと整理したら。
小柳　うん。
猪原　出てきた。そのランドセル。ジャジャーンって。
小柳　なにそれ、ジャジャーンて。
猪原　びっくりするくらい、趣味悪い。
小柳　へぇ。
猪原　ドラゴンとか炎とかでゴッテゴテの、すごい破壊力のやつ。
小柳　すごそう。
猪原　なんなんあの趣味。ほんっと最悪やぞいね。

猪原、笑う。
小柳も、少し、笑う。

猪原　ぜったい頼隆好きやわ。

小柳、猪原を見ている。
慰めようとするが、猪原、その手を制す。

猪原　ちょっと思い出しただけやん。

小柳、小さくうなずく。

猪原　おいといて。

しつこい雨音が続く。
小柳は猪原の隣に座っている。

溶暗

徐々に雨足弱まり、止む。
シャッターの開く音。それとともに、力強い正午の日差しが差し込む。
流れのはやい川のせせらぎ大きく。
カーテンコール。

おしまい。

上演にあたっての注意事項

上演にあたっては著作者の承諾を得てください。

（著作者）南出謙吾　Mail minamidek@gmail.com　X @minamidek